

科目名	言語教育学特殊研究	担当者	ホサカ 保坂 トシコ 敏子	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>グローバル化が進展し、世界的な人の移動が盛んになった現在、言語教育のあり方が問い直されている。本講義ではグローバル時代の言語教育の在り方をクリティカルな視点から検討する姿勢と、文化観や価値観の異なる相手と共生するための言語教育について提案できる能力の涵養を目的とする。具体的には、日本の英語教育に対するクリティカルな論考と日本語教育に対するクリティカルなアプローチ、さらには、ヨーロッパの言語教育が目指す方向性に触れることで、現在の言語教育に関する問題意識を深め、自分自身のフィールドの問題点を見出し、授業計画が立案できるようになることを目的とする。</p> <p>以上の目的を達成することにより、論理的・批判的思考力を中心に、問題発見・解決力、コミュニケーション力、協働力、省察力、世界の現状を理解し説明する能力の獲得を目指す。</p> <p>【日本大学教育憲章ルーブリック：A-2:4, A-3:4, A-5:4, A-6:4, A-7:4, A-8:4】</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 グローバルな視座に立った言語教育やその研究に必要な専門性（知識・技能・態度）を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化社会の教育に対するクリティカルな視座を理解する。 ・ヨーロッパで提唱されている市民性形成のための相互文化的能力を育む言語教育という視座を理解する。 ・それらの視座について、クリティカルに論考する。 ・自分自身の言語教育の現場について、クリティカルに検討し、改善点を考察する。 ・自分自身の教育現場に配慮して、目指すべき言語教育の方向と具体的なカリキュラム（案）・コース（案）を作成する 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を行う。 ・manaba folio の掲示板を利用して、受講者同士の協働学習を行う（課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等） ・図書館、インターネットで自律的に論文を検索して、レポートを作成する。 <p>【学修方略（LS）】</p> <p>（自習）教材の熟読 （自習研究）参考文献の検索と熟読 （レポート作成）レポート作成・レポート推敲 7 （ディベート）掲示板上のディスカッション、ピア・レスポンス（受講者同士で互いのレポートにコメントをし合い、推敲する協働活動）</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。 1) 教材の学修：20時間 2) レポート執筆：10時間 3) レポート推敲と最終の完成（教員の添削指導、ピア・レスポンスを含む）：15時間</p>		
スケジュール	<p><前期> ・レポート課題1 締切：6月末（初稿） 前期締切日（最終稿） ・レポート課題2 締切：8月末（初稿） 前期締切日（最終稿）</p> <p><後期> ・レポート課題1 締切：10月末（初稿） 後期締切日（最終稿） ・レポート課題2 締切：12月末（初稿） 後期締切日（最終稿）</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	論旨明確さ、内容の妥当性・独創性、構成・文章表現の妥当性、引用文献の適切性等 ★前期レポート課題1, 2と後期レポート課題1は最終稿で評価する。 ★後期レポート課題2は最終試験として初稿で評価する。提出後の指導・ピア・レスポンスは通常通り行う。
	観察記録	20%	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、初稿から最終稿にいたるまで、教師のフィードバックによる書き直し、ピア・レスポンスによる推敲、最終稿の完成と段階的に進める。 ・初稿の提出は締め切りを遵守すること。 ・ピア・レスポンスは、それぞれのレポートへの個別指導が終わり次第始める。 ・レポートでは、引用のルールや参考文献の明示、制限文字数（参考文献、注を除いたもの）を遵守すること。無断引用等、研究倫理上の重大な問題があった場合は、評価の対象外となる。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 久保田竜子（著） 教材名： 『グローバル化社会と言語教育 クリティカルな視点から』 （くろしお出版，2015） ISBN:978-4874246689 2,600 円+税</p> <p>本書は、多様性社会における日本の英語教育をめぐる問題と現在の日本語・日本文化教育の問題について、クリティカルな視点から分析して論じるだけでなく、言語教育の方向性についても具体的に提言を行っている。筆者は、日本の英語教育と北米の日本語教育に関わってきた北米在住の応用言語学の専門家で、英語の論文を日本語に訳したものである。複数の教育環境で、複数の言語を教えてきた知見であり、語種に関わらず、グローバル時代の言語教育を再検討する刺激となる。</p>
参考図書	<p>佐藤慎司・高見智子・神吉宇一・熊谷由理 編『未来を創ることばの教育をめざして 内容重視の批判的言語教育 (Critical Content-Based Instruction) の理論と実践』(ココ出版, 2015) ISBN 978-4-904595-69-5 3,600 円+税</p>
履修上のポイント	<p>多様性社会における言語教育の問題について、英語教育、あるいは、日本語教育など一つの言語の問題をとしてではなく、多様な言語を視野に入れた、幅広い視点から検討すること。自分が従事する言語の教育と他の言語の問題と比較しながら、視野を広めた上で、自分のフィールドの問題についての論考を深めていただきたい。また、基本教材 1 で採り上げた問題以外のものについても理解を深めるため、参考図書にも触れていただきたい。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材 1 の中で指摘されている、日本の英語教育や現在の日本語・日本文化の教育の問題点について 3 つ取り上げ、それぞれ筆者の主張をまとめて、それに対する自分の考えを論じること。 (3,000 字～4,000 字) 留意点： 筆者のクリティカルな論考について、クリティカルに論じること。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材 1 を参考に、自分が携わる言語教育のフィールド、あるいは、自分か今まで受けてきた言語教育の問題などを取り上げ、クリティカルな視点から論じること。(3,000 字～4,000 字) 留意点： 基本教材の章のタイトルを参考に、問題とするテーマを絞って、論を展開すること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： マイケル・バイラム（著） 細川英雄（監修） 山田悦子・古村由美子（訳） 教材名： 『相互文化的能力を育む外国語教育—グローバル時代の市民性形成をめざして—』 （大修館書店，2015） ISBN: 978-4469245967 2,800 円+税</p> <p>本書は、CEFR に代表されるヨーロッパの言語教育政策を牽引してきた重鎮バイラムが 2008 年に発表した "From Foreign Language Education to Intercultural Citizenship: Essays and Reflections" の全訳である。言語教育が、文化を含め市民性の形成、社会参加などの広い枠組みでとらえなおす必要性を主張するものである。言語教育の政治性についても明快に示している。</p>
参考図書	<p>・細川英雄・尾辻恵美・マルチェッラ・マリオッティ（編集）『市民性形成とことばの教育—母語・第二言語・外国語を超えて』(くろしお出版, 2016) ISBN: 978-4874247051 2,800 円+税</p>
履修上のポイント	<p>筆者の「外国語教育はスキルの伝授で終わってはならない」という主張の理由や背景を、参考図書も参照しながら考えること。</p>
レポート課題 1	<p>基本教材 2 の 2 章、3 章で指摘されているに日本の英語教育の問題点を整理した上で、バイラムが主張する「相互文化的市民性」の概要と意義をまとめ、それに対する自分の考えを論じなさい。 (3,000 字～4,000 字) 留意点： 「相互文化的市民性」の育成を主張する背景など、誕生の背景や目的、具体的な方法など、要点をわかりやすくまとめること。</p>
レポート課題 2	<p>基本教材 2 の論考を参考に、グローバル化時代において、自分の言語教育のフィールド、あるいは、日本の言語教育は何を目指すべきかについて検討し、その目的を達成するために必要なカリキュラム（案）やコース（案）を作成して、その期待される効果について論じる。(3,000 字～4,000 字) 留意点： カリキュラム（案）やコース（案）が具体的に思い浮かばない場合は、GSSC の講義概要の枠組みを参考にすること。</p>